

シルバー さくら



公益社団法人

佐倉市シルバー人材センター

〒285-0025 千葉県佐倉市錦木町198番地2

レインボープラザ佐倉 2F

電話：043-486-5482(代) FAX：043-486-5419

メールアドレス
sakurassjc@sjc.ne.jp

ホームページ
<http://webc.sjc.ne.jp/sakurassjc/>



左のQRコードを読み取ると、(公益社団法人)佐倉市シルバー人材センターのホームページが開きます。

令和3年9月1日 発行

第126号



写真集も制作中！
創立40周年記念誌発行

特集

ハローシニア佐倉

(佐倉市シルバー人材センター)



地域社会に貢献する
佐倉市シルバー人材センター



創立40周年を迎えます！

会長 田中 豊嗣

佐倉市シルバー人材センターは、「佐倉市高齢者の働く会」を母体として、昭和56年10月1日「社団法人佐倉市シルバー人材センター」としてスタートしました。

これまで当センターの運営に携わって頂いた先輩諸氏および会員の皆さまのご努力の陰で、創立40周年の記念すべき日を迎えることが出来ることに、紙面をお借りして心より感謝申し上げます。

一言で40年と言っても色々な事が有ったと思います。

創立40周年記念誌にこれまでの歴史が綴られていますので、お手元に届きましたらご覧下さい。創立当初は、高齢化がまだ深刻ではなく、「高齢者の働く会」という有志の集まりで活動されていましたが、平成の時代に入り少子高齢化が問題となり、「元氣なシニアに頑張ってもらおう」と国を始め自治体からも期待して頂くようになりました。シルバー人材センターに於いては、会員が増え始め、事業実績も確実に伸びて来て、シルバー人材センターの位置づけを確固たるものにする為、平成24年に「一般社団法人」から「公益社団法人」へと生まれ変わりました。

当センターは、この「追い風」に乗って時代のニーズに対応した事業運営を展開して来ました。今後は、更に高齢化が進み、まさに「元氣なシニア」の出番です。

「人生100年時代」が確実なものになりつつある中で、創立50周年を目指し、「元氣なシニアの居場所」となるシルバー人材センターを会員の皆さんと一緒に創って行きましょう。

創立40周年記念誌 名称・表紙写真の受賞者紹介

40周年記念誌の「名称」及び「表紙写真」については公募することになりました。

まず、名称部門には28人37作品の応募があり、『仲間一出会い ふれ合い 支え合い』に決定しました。そして、写真部門には9人26作品の応募があり、『秋涼・ふるさと広場風車とコスモス』となりました。いずれも、三段階の選考の結果でした。おめでとございませう。

表彰式が令和3年8月17日に開催され、田中会長より表彰と副賞が授与されました。

■記念誌名称最優秀賞■



根郷・弥富地区
竹田 茂さん

『仲間一出会い、ふれ合い、サキムス』

就業先の昼休みに、縄跳びをしていたところ、「アキレス腱断裂」という、思いもよらぬケガをしてしまいました。手術、通院、リハビリ、松葉杖から歩行補助靴着用の生活、行動の制限に耐え、日常生活に戻ったのは三ヶ月後でした。就業先の勤務はシフト制のデスクワークが主体でしたので、医療スタッフをはじめ同僚、事務局、関係者のご協力でなんとか乗り切ることが出来ました。この苦い経験を生かし、助け・支えて頂いた皆様への感謝の気持ちを込め、記念誌名称を『仲間一出会い、ふれ合い、支え合い』としてまとめ、応募させて頂きました。



■表紙写真最優秀賞■



根郷・弥富地区
穴澤 章さん

『秋涼・ふるさと広場(風車とコスモス)』

この度は、最優秀賞を賜り大変ありがとうございました。今回、受賞できたのは、写真同好会の皆様をはじめ、諸先輩のご支援の賜物と感謝申し上げます。20代から撮影はしていましたが、何かの機会がなければ撮りませんでした。13年前、初孫ができたことで新しいカ

メラを購入、定年退職を機に一眼レフカメラを追加、本格的に撮り始めます。佐倉市シルバー人材センターに入会。その11月に写真同好会に入ってから撮影目的の旅とドライブが頻繁になりました。

写真同好会の撮影会は年間6回程あり、皆さんと一緒にいくことが楽しみです(コロナ禍で現在は休止中)。私は白馬村が好きで、春か秋、年1回は日帰りか1泊で出かけています。当日の天候を見ながら、近隣の他、長野県、山梨県、栃木県など比較的近場に高速深夜割引料金を利用して撮影に出かけます。また、県内にも多くの撮影スポットがあります。

応募した動機は、何と言っても賞品に魅力がありました。今回、賞を戴いた作品については、その日の気象条件を見て、撮影しました。

これを機に、益々撮影活動に励みたいと思います。本当にありがとうございます。

■表紙写真優秀賞■

根郷・弥富地区 東野 正明さん
『佐倉ふるさと広場(チューリップ燈)』

まさか優秀賞を頂くとは!?。記念誌の名称『仲間一出会い、ふれ合い、ささえ合い』決定を聞き、我が佐倉市のモニュメント「佐倉ふるさと広場」が頭に浮びました。多数のボランティアが支援し、小学生達が球根を

植え、多種多様な美しいチューリップが花を開き、多くの人々が集います。スマホで気楽に撮ったのがこの写真。思えば高校1年の時、芸術家岡本太郎氏の「芸術とは爆発だ!」に感化され、親友5名とデザインクラブを設立。以降卒業まで3年間、受験勉強はほとんどに放課後は部屋に集まり写真、陶芸、イラスト等を制作。そして多くの展覧会に応募したが全て落選。それが70を超えて賞を頂くとは。有難うございました。年をとつても面倒がらず何にでもチャレンジする事が必要ですね。

明るく、楽しく、元気よく、そして前向きに。残る人生、面白、可笑しく!です。

■記念誌名称優秀賞■

根郷・弥富地区 橋本 礼男さん
『人・地域・和』

当センターが、地域と色々な関わりを持って社会貢献している証となる記念誌であつてほしいと考えて、応募しました。それには、人と地域の和が表されるものと思います。

私は現在、公共の仕事に就いており、その待ち時間を利用して、就業先周辺の道路を中心にゴミ拾いと除草を約4年間続けています。コロナ禍が早期に終息し、就業や美化活動におけるマスク着用が解除される日の早く来ることを願っています。

創立40周年記念誌

まもなく完成

佐倉市シルバー人材センターは令和3年10月に創立40周年を迎えます。これを記念する事業として、令和2年3月に創立40周年記念誌編集委員会が設置され、6名の委員による記念誌編集が始まって今日に至ります。委員の皆さんの奮闘の余話を長田委員長に伺いました。

編集テーマを絞り込み、全体の構成を整え、そして記念誌の意匠を決めるのは大仕事ですね！

当センターのこれまでの記念誌や他のセンターのものを研究したうえ、基本的には30周年記念誌の構成を踏襲しつつ、独自の特色を盛り込むことにしました。

高齢者支援とICT推進の両事業はここ10年で特筆すべきものであり、「特集記事」としました。

30周年誌にはない「お客様からの寄稿」を掲載しました。

時機を得た題材として「新型コロナの対応策と影響」と「新中期計画」を取り上げました。

見て分かり易いように「就業状況写真」を組入れました。ただ、写真の選択には苦労しました。



40周年記念誌 編集委員会



← 編集委員会

田中前会長のご提案により「40年前の熱意と努力」と「理事活動委員会」を取り入れました。
記念誌の意匠はとても重要です。名称と表紙の絵柄は公募して最優秀作品を選び、表紙の題字は筆耕班にお願いしました。
また、主要な事項は理事会にお諮りし、編集作業を進めました。



← 最終校正を待つ記念誌

創立40周年記念誌編集委員会のメンバーの紹介を！

清原 義明さん (副委員長)

「40年間の歩み」、「役員年表等」を担当。理事、委員長、地区長、同好会役員等を歴任された重鎮。同好会歌の会で自慢ののどを披露。ただコロナで今はお休み

橋本 堅治さん

「名称・表紙の写真等の公募」、「就業状況写真」等を担当。趣味の将棋は、あの加藤一二三九段から直に指導を受けたという筋金入り

福升 茂男さん

「特集記事」、「新中期計画」等を担当。総務委員会の委員で、福祉有償運送のドライバーに就業

吉山 透さん

「お客様から」、「会員の声」等を担当。スポーツ自転車を乗りまわし、テニスコートに通う行動派。放置自転車の監視に従事

高橋 満さん

文書デザイン構成のプロ。「就業状況写真」、「40年間の歩み」のデザイン構成を担当。仕事は介護施設の送迎ドライバー

長田 成兒 (委員長)

全体調整担当。昨年度までやっていた広報委員会の経験が、40周年記念誌の編集に役立ちました。

創立40周年記念誌の編集に携わって感じられたSJCの印象は！

行政に頼らず会員のみで事務局を運営していることですね。おそらく40年前の創立の経緯からくるもので、佐倉市SJCの特徴だと思います。

記念誌の原稿の校正作業は大詰めです。ゴールが見えてきた今の心境は！

発刊後には様々なご意見もあるでしょうが、編集委員としてはこれが一杯だったので、今は、何とかこまで来たという安堵感がありますね。快く執筆依頼に応じて下さった皆様、お世話になった地区長理事の皆さん、事務局の皆さんに感謝しています。



田中 豊嗣 会長

お話の結びには「記念誌は将来にわたりずっと残るものなので、佐倉市シルバー人材センターの現状のモニュメントとなつてほしいと思います」との一言がありました。発刊は10月。当センターの40年の歴史の外と内で同時代を歩んだ今のシルバー世代には、とても身近で親しみのある記念誌になることでしょう。記念誌編集委員の皆さまのご尽力に感謝いたします。

創立40周年記念写真集

創立40周年記念誌に加え、記念写真集「おもいで」も会員の皆様にお届けできることになりました。



仲間と一緒に仕事をして、仲間と一緒に遊んで、過ぎ去った日々が「走馬灯のように」よみがえります。さあ、一緒にタイムスリップしましょう！

センターの建物が写る写真集の最初のページ、青空に書かれた写真集のメッセージが、コロナ禍の今、心に染みます。



急遽、写真集の編集委員会が作られ、作業が始まったのは今年の4月になってからでした。創立40周年記念誌作りの作業は昨年の3月から始まっていましたが、田中千俊前会長の発案で、写真集を記念誌の別冊にして沢山の写真を載せ、皆様に想い出を楽しんで頂くとういうことが決まりました。

編集委員は田中豊嗣現会長、広報委員から高橋満さんと秋元正之さん、事務局から柿丸洋さんの4人。柿丸さんが取り纏めた、センターのサーバーに残されていた約25,000件の写真データと田中前会長から提供された写真を

基に、掲載写真の絞り込み作業が始まりました。選定作業はここ10年以上センターと共に歩んでこられた田中現会長を中心に進められ、編集委員全員による4回の選定作業を経て、最終的に約600枚の写真に

絞り込まれました。「堅苦しい写真は出されるだけ外し、会員の皆様の楽しい思い出を引き出すような写真を選びました。膨大な枚数からの絞り込み作業は大変でしたが、昔の写真に懐かしさを感じながらも、効率よく進めることができ、驚くほどの短時間で選定作業を終えることができました。」と田中会長。

選定された写真は、高橋さんのレイアウト編集作業で写真集としてまとめられ、8月半ばに印刷会社に回されました。「広報誌に比べ何倍もの作業量でしたが、楽しみながらやることができました。」と高橋さん。秋元さんは現役時代の仕事の専門分野を生かし、写真アルバムに特化した印刷会社を選定し、交渉窓口を担当しました。写真集は9月下旬に納品され、10月の定期便で40周年記念誌と共に会員の皆様にお届けされる予定です。

写真集に載せられた写真は、シルバーフェスタや30周年記念式典などの種々のイベントや各種講習会風景やいくつかの職群の仕事現場などで撮られたも



の。仕事での真剣な姿もありですが、多くは仲間と一緒にイベントを楽しむ会員皆様の眩しい笑顔が溢れた写真です。コロナ禍で忘れかけていた、人と人とのつながりの楽しさを思い出させてくれる素敵な写真集になりました。

最後に田中会長から会員の皆様へのメッセージです。「ともかくタイムスリップして、写真集のタイトルの通り、思い出に浸って楽しんで下さい。」創業40周年記念写真集編集委員の皆様、お疲れ様でした。ありがとうございました。

創立40周年記念品のについて

創立40周年を祝う記念式典はコロナ禍の影響により中止となったことから、記念品を会員に届けるアイデアが生まれ、創立40周年記念品プランは採択されました。この記念品は、担当理事と事務局のご尽力により提案された数ある候補の中から、評判の良かった一品が選ばれました。日ごろの暮らしに重宝するもので、記念品に相応しいように、SSJCのロゴマークが入ります。

会員互助会も記念品を準備しています。一年を通じて手軽に使えるものです。会員が日ごろの仕事でお世話になっている企業へのご恩返しにもなるようにと、その企業のご協力も得て、調達されました。いずれの記念品も10月には皆さまのお手元に届きます。楽しみにお待ちください。



シルバー 俳短柳同好会

シルバー四十年記念誌

短歌



緑ある佐倉に住みし四十年
こよなく愛し静かに眠る

廣田 正明

六十路から人材センター四十年
体うごかしめさせ百歳

岡田 典子

五輪後の昭和四十年の君は
ピカッと光る新入社員

竹田 宗司

ぬくもりは母の手編みのちゃんちゃんこ
四十余年も守りくれたり

新井 和子

ずっしりと厚きアルバム取り出せば
四十余歳の若き顔、顔

漆原 幸二

父親となりて過ぎ越し40年
子等の様見て自らを問う

中村 寛

四十年前の自分を振り返る
子育て仕事はつらつと生きて

越川 圭子

通勤時求めし傘四十年
今使われず色褪せにけり

小林 弘